

# ついにラスベガスでの勉強会が始まった。 どんな内容が待ち受けているのか、 期待に胸が膨らむ膨らむ!! アメリカセキュリティ視察第九弾!!

前回で話した通り、巨額な金が蠢く欲望と華やかさと危険が同居する街ラスベガス、その街で一体何が起きている? 「斬、耕平が斬る!」

## ネバダ州立大学・・・

講師を務めてくれた、ステイブ・イーヅリー氏(ホテルミラージュとトレジャー・アイランドホテルのゲーミング・マネージャー)の話、私が調べたことを交えながら、説明しよう。

ラスベガス(以下LV)はネバダ州にある。

ネバダ州立大学には、カジノ学科があり、ここではゲー



恰幅の良いステイブ・イーヅリー氏。

ミングの研究やセキュリティ・マネージメント等を専門に教育している。

日本にカジノが建設されるのは時間の問題だ。カジノが出来る前に、このような教育機関を設立し、専門家を育てることが急務だと思うが、いかがだろうか?

## LVでの犯罪について・・・

ラスベガスでのゲーム上で

起きた犯罪は、全てネバダ州に属する「ゲーミング・コントロール」で管理管轄されている。

その他の、ゲーム上以外で起きた、殺人や麻薬事件などは、「メトロポリス(市警察)」の管轄となっている。

LVでは、最も安全な場所はカジノと言われている。

外を平気で歩いていると、まずは恐喝、万引き、美人局、



絢爛豪華なホテルミラージュの入り口。

## カジノ内の犯罪・・・

従業員(メイド以外)は、就職時に、身分証明書を提出

しなければならない。過去に犯罪履歴がないか、厳しいチェックを受けなければ雇ってもらえないのだ。

一度でも過去に過ちを犯している、身分証明書を取り上げられ、ネバダ州の全てのカジノで働くことが出来なくなってしまう。

『ある国では悪さをした店員や社員が、素知らぬ顔をして他店で働いている時がある』少しでも見習って欲しい点だ。

## ゲーミング・コントロール・ボード・・・

法の執行機関を「ゲーミング・コントロール・ボード」が担っている。

全てのカジノの監視をしていると言っても過言ではない。2011年437名の職員を擁し、年間予算\$4251万ともの凄く大きな組織で、実質的には公安・警察機能も保持し、FBIや州警察とも連携・協力し合っている。(参考資料IRG、ネバダ州・制度の仕組み)

1999年に行った時と、システムに少し違いがあるか

もしれないが、当時はカジノに関わっている人を、直接的に逮捕することが出来ない(警察と連携して逮捕することは出来る)、留置することは出来た。

留置場の中には、ビデオカメラやマイクロホンが取り付けられている。

これは取り締まる側を守るため、留置場の中で、暴力や強制的に自白させる事が無かったことを証明するために利用されている。



熱心に勉強中。

## ホテル同士の繋がり・・・

ホテル間での横の繋がりはなく、自分のホテルさえ被害が出なければ良いと思っ

「他所のホテルで悪さする分には、全く問題ない」とステイブは、苦笑いを浮かべながら説明した。

『うーむ、これも自分がホテルセキュリティコンサルタントとして、各ホールに行った時、良く耳にした言葉だぞ』

ただ、完全に繋がりが無いと言っわけでもなく、犯罪者の写真や情報はやり取りしているらしい。

どのくらいの犯罪者が蠢いていると思いますか? チョット考えてみましょう。

正解は、「一ヶ月に500、600人とのこと!」さすがはアメリカ、桁が違っってもんです。

これにはセキュリティ日本代表? 中野耕平もビックリです(苦笑)

その頃はまだE・mailが整ってなく準備中とのことだったが、今ではネットを介して、情報のやり取りをしていることだろう。

ホテルから追い出すのは(犯罪者は捕まえてメトロポリスなどに引き渡される)、ホテルの規則を破ったというよりも、



なかの こうへい  
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつつ、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広く伝えるべく活動を行っている。



記事に関するお問い合わせはA・P総研まで Tel.03-3202-0971